

令和5年度_東京純心大学_国語解答例_一般選抜第2回(20230219)

問題番号	設問	解答例	配点	
一	一	① 裁縫	2	
		② 普及	2	
		③ 隆盛	2	
		④ 必須	2	
		⑤ 浸透	2	
		ア こっけい	2	
		イ あやま(ち)	2	
		ウ いっぴん	2	
	二	ア 師走	2	
		イ さいじき 俳句の季語を集めて整理し、解説や俳句を載せた書物	2 6	
	三	平安時代には七夕の夜に詩歌の書を供える習わしがあった。また民間では、七夕の夜に罪や汚れを祓う「七夕送り」を行ったり、前夜に文字・文筆の上達を願って机や硯を洗い清める「硯洗い」などの風習があった。そして江戸時代になり手習いが盛んになった後に、五色の短冊に願い事を書いてつるす笹竹飾りが一般化していった。	12	
	四	日本では江戸時代以降に、浮世草子などの書物が人気を集めるなど出版事業が発達した状況と関連して手習いが盛んになり、読書人口が拡大した。それと同様に、ヨーロッパではフランス革命以後に、新たに登場した大衆新聞に連載小説が掲載されるなど出版事業が発達する中で、上層中産階級に読書の習慣が広がり、必須の教養ともなっていた。	12	
	二	一	① 概念	2
			② 瞬(く)	2
③ 監督			2	
④ 把握			2	
⑤ 錯覚			2	
ア たくえつ			2	
イ あやつ(る)			2	
ウ はっき			2	
二		A	漢字…魚	1
			読み…うお	1
			活躍の場を得て生き生きと動くさま	4
		B	真理にそむくようでありながら実際には真理を突いているさま	4
三		競技には必ずあるルール=拘束に体や思考を順応させるトレーニングを積むなかから、拘束に対し受け身になることで、その競技における創造性や想像力が生まれていくこと。	12	
四		作者が事前に設定した意図などは、綿密に風景などを書く作業を通じて乗り越えられ、小説は個別の作品として運動を開始してしまうが、作者がそれを必死に追いかけていくことで、小説は優れた芸術作品足りうる可能性があるから。	12	
合計			100	